

二九五一番

海石榴市の 八十の衢に 立ち平し 結びし紐を
解かまく惜しも

二九五二番

我が命し 衰へぬれば 白たへの 袖のなれに
し 君をしそ思ふ

二九五三番

君に恋ひ 我が泣く涙 白たへの 袖さへひち
て せむすべもなし

二九五四番

今よりは 逢はじとすれや 白たへの 我が衣
手の 乾る時もなき